



News Letter

第17号 : 発行日 平成26年4月21日

苦痛を和らげる内視鏡検査(鎮静法)について

内視鏡検査は、食道がん・胃がん・大腸がんの早期発見と治療に有効な検査法であることが広く知られています。しかし、身体内部へ内視鏡機器を挿入されることに対して大きなストレスを感じる方も少なくありません。今回のニュースレターでは、「苦痛を和らげる内視鏡検査法(鎮静法)」について紹介いたします。

内視鏡検査における鎮静法

すべての内視鏡検査では、検査前に「キシロカインスプレー」を用いて「咽頭や喉頭(上部内視鏡検査)」あるいは「肛門周囲(下部内視鏡検査)」の粘膜表面を麻酔します。粘膜表面麻酔によって粘膜局所の痛みを軽減することができます。「鎮静法」は、粘膜表面麻酔だけでは苦痛が十分に軽減されないと感じる方に鎮静剤を静脈注射する方法です。鎮静剤を注射すると意識が低下し、眠ったような状態で内視鏡検査を受けることができます。

鎮静法の長所と短所

<鎮静剤の長所>

- 1) 鎮静剤の注射によって不安感が極めて少なくなり(抗不安作用)、検査中の苦しさを忘れさせてくれます(健忘効果)。
- 2) 検査を受ける受診者の苦痛に対する防御反応がなくなることで、内視鏡操作を安全かつ円滑に行うことができます。
- 3) 受診者の苦痛が大きいときは、内視鏡検査中であっても鎮静剤を追加投与し、ストレスを軽減させることができます。

<鎮静剤の短所>

- 1) 薬剤アレルギーを生じることがあります。
- 2) 鎮静剤の投与量が多すぎたり、薬剤に対して受診者の身体が過剰に反応した場合、一時的な呼吸機能低下が生じることがあります(呼吸抑制)。
- 3) まれに血圧低下が生じることがあります(循環抑制)。
- 4) 検査後も眠気が遷延することがあります(覚醒遅延)。

鎮静法の手順（上部内視鏡の場合）



① 腕にサーフロー（ナイロン製の注射針）を留置します。



② 上部内視鏡の場合はキシロカインスプレーで咽喉の粘膜を麻酔します。



③ 検査室で鎮静剤を静脈注射します。



④ 血中酸素濃度や心拍数をモニター（○印）します。

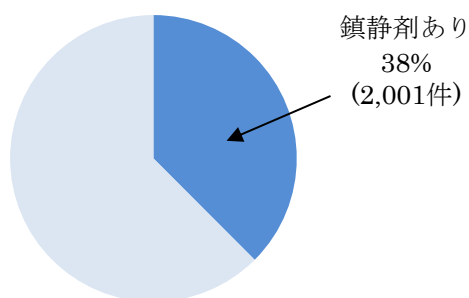
* 鎮静剤を用いた内視鏡検査を安全に受けていただくため、当院では以下の取組みを行っています。

- 1) 検査中は、医師と看護師が協力し、受診者の血中酸素濃度、心拍数を連続モニターします。
- 2) 検査終了時に鎮静作用を中和する拮抗剤を使用します。
- 3) 鎮静剤を使用した方が完全に覚醒するまで1時間ほど、院内でお休みいただきます。
- 4) 鎮静剤を用いた日は、車の運転を見合わせていただきます。

当院における鎮静剤使用の割合

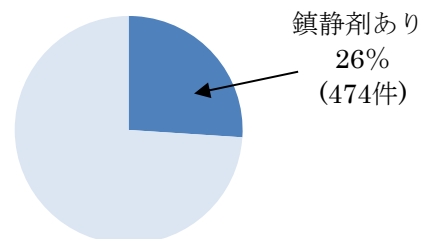
上部消化管内視鏡検査

(2013年度 検査件数5,334件)



下部消化管内視鏡検査

(2013年度 検査件数1,821件)



当院では受診者の方が希望された場合に鎮静法による内視鏡検査を行っています。鎮静法を希望される方は予約時にお申し出ください。

検査の予約やご相談は、Tel.03-3668-6806 へご連絡ください。



今後もニュースレターを発行し、皆様の健康管理に少しでも参考になればと思います。ぜひ皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。今後もこのニュースレターやホームページ等を通じ、役立つ情報を発信してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

公益財団法人早期胃癌検診協会 事務局

Tel.03-3668-6803/E-mail:mail@soiken.or.jp